

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	北見福祉事業サービス(株)
(ユニット名)	グループホーム しあわせ館 1階ユニット
所在地 (県・市町村名)	北海道北見市東相内町143-32
記入者名 (管理者)	高橋 裕幸
記入日	平成 20年 5月 9日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着することを当然の事として踏まえた事業所独自の理念を作り上げている。	○	入居者様の希望を取り入れながら地域の方たちと接し続けるよう支援したい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所及び共有のスペースに掲示し、常時職員の目の触れるようにしてある。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に掲示し、入所前に説明している。	○	コミュニティを重視し、交流機会を増やすことで、理念の浸透と理解を深めて生きたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出、買い物時気軽にあいさつや声掛けたりはされているが、気軽に立ち寄れるまでには至っていない。	○	地域の人達が参加できるイベントを開催し、参加できる機会を設けていく必要がある。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の会合には参加させていただいている。大正琴の慰問にきて下さることもあった。	○	運営推進会議の場において、地域貢献や地域活動への参加を検討していく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者福祉をより多く理解して頂くためボランティアの受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、及び管理者は外部・自己評価の重要性や意義を理解できているが、職員の理解度は低い。	○	今回の自己評価及び外部評価を経て、指摘内容を有意義に活用するため改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表、行政職員、地域包括支援センター職員、町内会長、事業所職員を構成員として運営推進を開催している。会議では運営状況、行事实施状況、研修報告がなされ、活発な意見交換を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス提供時、不明点があれば市の担当者に連絡し、連携を図っている。	○	今後より良い関係が継続し、協力し合えるようにしていく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護については、研修に参加する機会を設け学んでいる。	○	社内研修を計画的に実施し、職員の周知徹底を図りたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営者、職員は研修を受け、会議において職員の意思付けを行っている。	○	日常業務の中で起こりえる虐待の種を職員同士で話し合い、どう防いでいくか話し合う必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明を行い同意を得ている。重要なことはその都度、家族また本人様に説明を行い納得していただいている。	○	リスクについての説明、納得された上で入居を推進していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明時、苦情の申し出の説明を行っている。また話しやすい環境を作るよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に施設便りを作り、家族へ手渡している。また病状の変化等は家族に連絡し意向を確認しながら医療機関の調整を行っている。面会に来られた場合、最近の状況や変化についてお伝えしている。金銭管理については面会時に出納帳を確認してもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。ケアプラン説明時に家族の方に意見、要望を聞き取り入れている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い勉強会や意見交換を行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族等との話し合いを行い、臨機応変な対応ができる様に努めている。	○	ユニット毎に勤務時間の調整を行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員によるケアに努めている。新職員を向かえた場合、紹介し共に顔なじみの職員を支えた体制を取り対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会はできるだけ職員が参加できるようにしている。研修後は資料を添付し報告を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研究会に参加した際、他の施設の方と情報交換をしている。他施設見学に行きサービスの向上に役立っている。	○ 同業者、訪問等の機会を作り、参加していく予定
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みやストレス等、話を聞き職員同士人間関係の把握に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得には支援を行うように努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時よりご本人様、ご家族の状況、状態を確認しそれに応じたサービスに繋がるようにしている。何回もご家族に聴く機会を作り情報収集する努力をしている。	○ 今後も継続し、満足度に繋げる努力をする
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、ケアマネジャー、管理者によりご家族の困っている事、求めている事等を聴き取る努力をしている。	○ プライバシーに配慮しながら継続していく。信頼関係を深められるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時や利用までの相談時に、ケアマネージャー、及び管理者により家族の困っている事、求めている事等を聴き取る努力をしている。又、相談内容はプライバシーに配慮しながら職員間で共有している。	○	今後も継続し、満足度に繋げる努力をする必要支援の見極めを行っていく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にご利用者様、ご家族と面談し、事業所を見学してからの入居としている。ご利用者様が馴染めない場合、ご家族に頻繁に来訪してもらったり、宿泊してもらい、ご利用者様が安心して過ごせるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に理念に心がけ、散歩・ドライブ・買い物・外食などご利用者様の希望に応じた対応を行っている。又、その人にあった声かけ、対応を行うように努めている。喜怒哀楽を共にし、ご利用者様より学んだり支えていく体制にしている。	○	昔話を引き出し共感できるような支援を継続して行う
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて状況を聞かれた場合、現在の状況を伝えると共に、改善されたことや楽しんでいただいた出来事などをお伝えする。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族、ご本人様が、外出・外泊を希望された場合、状況をみながら安心して過ごせるようにしている。	○	クリスマスパーティーでは、ご家族に参加していただき楽しく過ごすことができた。今後も続けていきたいと思う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人が築いてきた場所や人間関係については、ご家族と連携しながら支援していく		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	手伝いたい、支えたいとの気持ちを大切にすることができることをお手伝いしていただいている。一人ひとりの能力を勘案し、状況を配慮した中で、役割を見つけていただけるよう努めている。	○	個人の希望も引き出し支援していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後の関係構築は実施されていない。	○	継続的な支援体制が必要な利用者及びご家族があれば、今後検討していく
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意思を大切にしている。希望・要望が困難な場合はケア会議でご本人様の意向を把握し、ご家族に相談し協力をお願いしたりしている。	○	会話や関係作りの機会を持ち継続するようにしていく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの経過、入居となった理由、生活暦等の聞き取りを行い、大切なもの・馴染みなものをもってきて頂くようお願いしている。	○	継続して情報を収集しADLの向上に努める
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズム、起床～就寝までの過ごし方を把握すると共に、表情・食事状態を観察し普段と違う心理状態を見分けることを心がける。	○	センター方式の一部の活用しているが今後他も活用し取り組んでいく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様の意向を第一に考え、ご家族の意向も確認し計画、作成に努めている。作成に関しては、同意を頂いている。	○	今後のご家族も交えて作成できるよう取り組んでいくように努める
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時、更新時は、介護計画の見直しを行っている。	○	対応できない変化が生じた場合はご家族を交え相談していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のファイルで作成し、その日の状況・言葉言動を記録に残し、情報を共有している。	○	センター方式の活用していく
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病気の際は、家族と相談しながら医療機関と連携を図り対応している。24時間受診可能な体制になっており、ご利用者様・ご家族にとって安心につながっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会資源の活用をもっと取り入れる必要がある。	○	地域にある資源の活用について具体的に検討していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者及びケアマネジャーとの連携はあるが、支援体制については構築出来ていない。	○	地域としての総合的な支援体制について検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護についての意識付けを職員に働きかけているが、地域包括支援センターとの協働はされていない。	○	長期的な支援体制を構築するため、地域包括支援センターと相談し、医療を含めた体制作りを目指す。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医で医療が受けられるよう、家族と相談を行い協力して頂き、通院介助を行ったり、通院が困難な場合は訪問診療に来てもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>情報を共存し、臨機応変に対応しご本人、ご家族に納得して頂ける支援ができるよう努力していく</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今後看護師、全職員を含めて重度化や終末期に備えて準備していく</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活暦や個人の性格を勘案した言葉かけを行っている。	○ ご本人様のプライバシーが漏れないよう配慮し徹底して取り組んでいく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゆっくりとした、ご入居者様のペースに合わせて、本人の気持ち聞き会話を行うように心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活暦や体調を考慮し、その人らしい生活を送れるよう支援している。	○ 利用者様のご希望に添えるように好みの番組や、ビデオで添えるように配慮している
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は、ご本人様の希望がある場合、意向に沿い支援し、出かけるのが困難な方は出張サービスを利用し、ご本人様の意向にてカットなどを行っている。	○ 本人らしさが常にあらわれているように働きかける。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を、ご利用者様と収穫し喜びを共有し、食材の一部として利用している。ご入居者様の力量に応じて、後片付けなども、職員と一緒にしている。	○ 立位で手伝ってくれる方が少なく、椅子を用意し座位でもできるよう支援している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時、嗜好の聴き取りを行い、出来るだけ意向に沿えるよう方向性を決めていく。	○ ご本人の要望に添えるように検討していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの情報収集を行い、一人ひとりに合わせて状況や能力に応じた支援を行っている。	○	オムツをできる限り使用しなくて済むようサインを見落とししないよう配慮していく。自立へ向けた支援を行っていく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声掛けをしなければ入浴しない利用者さんが多く、職員の都合になっている。	○	入浴を希望する雰囲気作りをし、気持ち良い入浴ができるよう支援していく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて、昼夜逆転しないよう、又体調や状況に応じ安心して休息していただけるよう支援に努めている。	○	日中運動、散歩等を取り入れ夜間、安眠できるよう支援していく
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や、後片付けなど、得意なことを活かした支援や、生活歴を活かした役割・レクリエーション・ドライブなど楽しみごとなど、ご利用者様が日々の暮らしに張り合いや喜びを見出せるように努めている。	○	気分転換を考え、ドライブ、外食等などたくさん取り入れていく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には管理していただいておりますが、ほとんどのご入居者様の金銭は職員が管理している。	○	利用者さんにお金を持ってもらい、買い物をするのを検討していく
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・ドライブ・外食等、一人ひとりの希望に合った外出支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに、お花見・紅葉狩り・流氷見学などを行い、ご利用者様に楽しんでいただけるよう支援している。	○	今後も継続していく。長時間車に乗ってられない方もおられるので配慮しながら支援していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様本人の希望がある場合、いつでも電話をかけていただけるようにしている。	○	今後暑中見舞い等を書く支援をしていく
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際には、ご入居者様にお茶を運んでいただいたり、面会も自由に行われている。また、ご家族に宿泊していただくことも可能である。	○	今後居心地よく過ごせる雰囲気作りに努める
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践していますが、利用者様の安全確保の依頼があったため、ご家族了承のもとで一部ベット柵を利用している。	○	職員同士注意しあえる環境作りを強化していく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけない暮らしの大切さを認識しており、日中は施錠していない。ご利用者様が外出しそうな様子の時には、職員はさりげなく声をかけ、一緒に行くなど対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	部屋への入室は、ノックをしたり声を掛けたりしてから入室するようにしている。個人の時間を大切に、見守りを行っている。	○	職員同士声をかけ合い、一箇所に固まらないでユニット全体の様子が把握できるように努めている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況を配慮した、ベット・家具の配置を、ご家族を含め話し合いで決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤薬事故防止に取り組んでいる	○	リスクマネジメントについて検討し取り組んでいく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修や講習に参加し、対応できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策についてのマニュアルは作成されているが、職員への訓練はされていない。	○	今後訓練教育を施行する予定
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	運営者、リーダーがご利用者様の状態を把握し、ご家族への説明を行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見に努める為にも、日頃から健康チェックをおこなう、記録に残し、異常時には主治医へ報告し指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、医師より指導を受けている。薬管理には、処方内容をケースとし、職員が内容を理解できるようにしている。複数の薬がある場合一包化にしてもらい、名前(朝・夕)など袋に記載してもらい、誤薬がないように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材・乳製品を取り入れている。腹部のマッサージを促したり、職員が行っている。毎日、排便の日数をチェック記録し必要に応じ、主治医へ相談を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内ケアは、一人ひとりの能力に合わせ促し、見守り介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者に馴染みのある料理を提供するよう心がけている。食事量・水分量を毎回個別記録し、1日の水分量のチェックをし把握している。	○	センター方式活用している
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	トイレ・洗面所にはペーパータオルを使用している。トイレ・洗面所及び水周りには、アルコール・次亜鉛酸ナトリウム消毒剤を設置し、ご利用者様、職員は手指消毒を行っている。また、手すり・トイレ等も常に消毒を行い感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具、ふきんは毎晩消毒し清潔を心がけている。食材は毎日新鮮なものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横に花畑を作り、季節の花を植え明るい雰囲気になる様心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンで食事作りを行うことで、家事に参加がしやすく臭いを感じていただくことによって、食欲への刺激にもなっている。ご利用者様の一部は、自分の使い慣れた食器や箸を使用している方もおられる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、広々として明るく清潔感が漂っている。音や光も敵宜調節されており、居心地のよい空間になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご利用様の使い慣れた馴染みのものが持ち込まれており、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いや空気の入替えに、窓をあけ換気を行っている。空気清浄機の設置など配慮を行っている。室温調節は、温度計にて常に測定調節管理をしている。冬期間は、加湿器による湿度調節も行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置し、バリアフリーにて車椅子が使用できるよう、安全確保や自立支援に配慮されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ等には目印を示しているが、状態に応じて声かけを行い、不安を取り除き、その方に合った工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に花壇や畑を作り、栽培から収穫まで楽しみながら活動できる環境を作っている。夏場は、玄関前にテントを張り、バーベキューをしたり、おやつを召し上がっていただいたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

『笑顔で楽しく暮らす』を基本に、午前中の体操時に笑いの体操も取り入れて、カラオケ・カルタ・ゲーム等で楽しんで頂いています。またそのほかにドライブ、遠足、バーベキュー、ラーメンツアーなどの気分転換も行っています。